

学校の教育目標

「主体的に生きる力」～幸せな社会を創る担い手を育てる～

校訓 「自律・友愛・勤勉」

「自律」…自ら考え、正しく判断し行動できる生徒を育てる。

「友愛」…自分や友達を大切に、「ありがとう」が言える生徒を育てる。

「勤勉」…学びあい、認め合い、挑戦できる生徒を育てる。

目指す姿とつきたい資質

① 主体性 自ら何かを始めようとする力	② 安全安心 主体性のエネルギーになる力	③ 学力、探究力 知識・技能・思考・判断・表現力、 主体的に学ぶ態度
④ 自己指導能力 自分で適切に決めて実行する力	「主体的に生きる力」 ～幸せな社会を創る担い手～ を育てる	⑤ 寛容性 多様性を受け入れ新しい考えを生み出す力
⑥ コミュニケーション能力 他者と協働するために必要な力	⑦ 情報活用能力 問題解決・探究における情報活用 の方法の理解、	⑧ 地域愛 地域への「貢献」に資する資質

重点目標

『自ら考え、正しく判断し 行動する生徒 ～自他の未来のための貢献～』

当事者意識をもって、判断、行動が、自分のため、友人のため、世のためになるのか？

安全安心

- 居心地の良い学校づくり
- 生徒主体の学びを目指しての授業改善
- ICT を効果的に活用し、共生社会の形成に向けた特別支援教育
- 「身近に本、気軽に読書」を合言葉に校内の読書習慣の形成
- 生徒の心の成長につながる体験的な活動や観賞の充実

動考

- 創意工夫を生かした特色ある教育課程の編成、生徒と教師がともに挑戦できる教育活動
- 集団の力を高める特別活動、勤労観・職業観を育てるキャリア教育の推進
- 人権感覚を身に付け、自他の人権を守ろうとする意識・意欲・態度が実践力につながる取組の推進
- 「シビックプライドの醸成」を目指し、SDGs の視点が含まれる生徒会等の主体的な取組の推進

元気

- 好ましい人間関係を育て、楽しい学校生活を実現、自己実現を目指す積極的な生徒指導の推進
- 生涯を通じて心身ともに健康で安全な活力を送るための健康教育（学校保健・学校安全・食育）の推進
- 教職員が、心身ともに健康であることを考え、ワークとライフのバランスを目指して、業務改善・働き方改革の視点をもって、改善・更新を行う。
- 開かれた学校づくりの推進

明るく、元気で、風通しのよい職場を目指して

- ① 職員集団の輪(チームで)と和 (35人の力を35倍の力で学校運営)「チーム則松」
- ② 生きがいのある学校 (風通しのよい組織、存在感、所属感ある学校)
- ③ 行きがいのある学校 (生徒も職員も笑顔でさわやかな朝のスタート)
- ④ 全体の奉仕者としての自覚 (「強い意識」、体罰・ハラスメント・飲酒運転・個人情報管理等)

安全安心

◇居心地のよい学校

【生徒指導・環境整備・生徒会】

○他者や集団の中で、自分は価値ある存在であるという実感

○基本的生活習慣「挨拶・時間・掃除・身なり(校則の見直しを生徒会とともに積極的に推進)」

「朝ごはん・睡眠・早寝早起き」運動の推進

【保健指導】

◇生徒主体の学びを目指しての授業改善

【学力・体力向上委員会・研究部・各教科】

○「北九州市指導の重点」を踏まえた学びの質を高める授業づくり

○ 全国学力・学習状況調査をもとに、定期考査の内容検討と改善、学力向上のための特設時間「則松タイム」の実施(教育相談期間中、定期考査前の補充学習、全校一斉帰りの会での10分間補充学習の取組など)、放課後学習教室の拡充、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。

○ 主体的・対話的な深い学びの視点からの授業改善を行うために、**指導と評価の一体化**は欠かせない。適切な評価を行い、さらなる指導につなげる。

○ ドリルアプリを効果的に活用するなど、自分で計画を立てて勉強する生徒を育成

○ 全学年「体力テスト」を効果的に実施し、その結果を活用し、「北九州市体力向上プログラム」を活用して準備運動の内容を工夫するなどして、体力の向上を図るとともに、「運動好き」「保健体育の授業が楽しい」という生徒を育てる。具体的には、「北九つ子体力向上シート」を活用し、持久走、ダンス等を年間通して継続的に実施する。昼休みのグラウンド開放(生徒会体育委員会)など「1校1取組」による年間を通した運動習慣の確立を図る。

【生徒会体育委員会】

○ GIGA スクール構想により実現された1人1台端末の環境下において、多様な子どもたちを誰一人取り残すことがないよう、**個別最適化された教育**を提供し、資質・能力を一層確実に育成していく。

① 家庭での活用

・オンラインでできる課題や復習での活用

→ドリルアプリによる効果的な家庭学習の在り方・学習過程での調べ学習

・オフラインでできる課題や復習での活用 → 文書作成ソフト・プレゼンソフトの活用

② 授業での活用(※教具ではなく、文具として)

・「一斉指導による学び」

- ・「一人一人の教育ニーズや、学習状況に応じた学び（個別最適な学び）」
- ・「子どもが教え合い学び合う協働的な学び（協働学習）」
- 「学びチャレンジリーディングスクール」にて検証
- ③ 生徒の理解度に応じた指導の個別化と学習内容の確実な定着を図るため、家庭学習や放課後の補充学習における「人」・「台端末のドリルアプリ」の効果的な活用を検証する。

「学びチャレンジリーディングスクール事業」【複数教科型】推進校(2/3 年次)

【教務・研究部】

学校の研究テーマ(2/3 年次)

ICT を効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善

～自ら課題を発見し、共に学び、高め合う生徒の育成を目指して～

9月13日(金) 学びチャレンジリーディングスクール発表会(複数教科)を開催

教科メンタリング教員(巡回型推進教員)・教育委員会指導主事・福岡教育大学樋口裕介准教授(教育方法学)の助言・指導のもと、ICT を効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業の工夫・改善を図る。

- 学校経営目標・スクールプランを軸にした研究を行う。
- ICT アドバイザー教員を活用し、全教員の ICT 活用・指導能力の向上を図る。
- 福岡教育大学樋口裕介准教授との連携を図るとともに、他の研究校への視察を積極的に行う。
- 「子ども目線」の、「生徒と共に」取り組む、「わかる授業」の実践
～「わからない」がわかる、「わからない」が言える授業、教科の壁を越えた授業研究～

1 目指す生徒像

自ら課題を発見し、共に学び、高め合う生徒

- ① (対象に)主体的にかかわり、自ら課題を発見し、取り組もうとする生徒
- ② 自分の考えをもち、多様な意見を取り入れ、共に学び合おうとする生徒
- ③ 学んだことを活用・実践しようとする生徒

2 研究の方向性

- ① かかわり合う意味のある発問と教材研究、組織・規律の確立についての研究
 - 主体を引き出し、対話に耐えうる深い教材研究に基づく発問づくり
 - 多様な主体(生徒)の参加を促す活動の組織
 - 学ぶ主体の自由を保障する規律・学級づくり
- ② 全職員による授業改善
 - 教科の垣根を超えた、授業改善に向かう協議
 - ICT 機器の活用に向けた研修
 - 「負担感」の少ない、教員の主体性を引き出す研究

3 年次計画

令和5年度:生徒の実態分析・把握、研究の方向性の決定、授業公開(3教科)

令和6年度:研究の具体化、授業公開(3教科以上)

令和7年度:研究の深化、授業公開(3教科以上)

4 研究の具体(今年度の取組)

- ① マイスター教員によるモデル授業(4月)
- ② 3つのグループによる授業改善に向けた研究
- ③ 「授業参観シート」を活用した、「生徒目線」での協議
- ④ 互見授業週間の実施(年2回)
- ⑤ 年間を通した授業改善につながる研修の実施(年6回程度)
- ⑥ 学習アプリを活用した、基礎学力向上・自主学習習慣定着の取組

◇ ICT を効果的に活用し、より個別の状況に応じた指導・支援を行い、共生社会の形成に向けて、障がいのある子どもと障がいのない子どもが可能な限りともに教育を受けられる学びの場の充実を図る。

【特別支援教育】

- 個々の実態に応じて ICT を活用しながら、子どもたちの可能性を生かす・引き出す教育の充実や子どもたちの「わかる」「できる」喜びの実感につなげ、子どもたちの「生きる力」の育成につなげていく。
- 生徒の実態に応じて「交流および共同学習」の実施方法を工夫し、誰もが学びやすい環境を整え、共生社会の形成に結びつけていく。
- 生徒の自立と社会参加を見据えた進路指導・就労支援の充実を図る。
- 関係機関、保護者等と連携した医療的ケアの実態に応じた支援体制の充実を図る。
- ※ 就学相談、教育相談・巡回相談については、特別支援教育コーディネーター・管理職を中心に生徒指導委員会や学年会と情報交換を密にして申し込みを行う。

◇ 身近に本、気軽に読書」を合言葉に、年間を通じた朝読書を推進し、望ましい読書習慣の形成を図る。

【図書館教育】

- 「本に親しみ、進んで読書する生徒の育成」「身近に本、気軽に読書」の環境づくりを目指し、図書館教育主任と学校図書館職員が中心となって、どの子どもにも本に親しむことのできる取組や図書資料の精選を生徒会図書委員会と連携して、組織的・計画的に行う。
 - ・学校図書館職員や（ブックヘルパー）のご支援により、昼休み（13:20～13:40）に開館する。
 - ・生徒会図書委員会が中心となり、放課後（16:00～16:30）に開館する。
 - ・図書館内のレイアウトを工夫し、図書を読みやすく居心地のよい学校図書館の環境を整備する。
 - ・「図書カード」を3年間図書館で管理することによって、図書の貸し出しの円滑化を図る。
 - ・読書を啓発したり新刊図書を紹介したりする「図書館便り」を発行し、生徒への情報提供や相談活動を行う。
 - ・思考力・判断力・表現力等の育成を目指し、学校図書館を活用した授業を推進する。
 - ・多くの生徒に図書館を利用してもらうために、図書の返却ボックスを図書館入り口や昇降口に設置する。
- 生徒の読書習慣の定着を図るため、生徒会図書委員会による学級文庫の増冊とローテーション、全校一斉「朝の10分間読書」を年間を通じて実施、読書感想文コンクールを実施するなど、一層の推進を図る。
- 4月23日「子ども読書の日」と、本年度から制定された10月 日の前後2週間の「北九州市子ども読書の日」の取組を充実させ、本市が掲げる新しい「子ども読書プラン」を推進する。
 - ・図書委員会を中心とした活動 ・放送・演劇部による読み聞かせなどを実施
 - ・1人1台のタブレット端末による「子ども電子図書館」の活用（ID・PWを生徒に配布予定）
 - ・ブックリサイクルを開き、除籍した図書を欲しい生徒に譲渡する。

◇ 生徒の心の成長につながるような体験的な活動や観賞を充実させ、新たな差別や偏見を生むことがないように、指導の徹底を図る。

【道徳・人権教育】

- 年間計画に基づき、年間35時間の道徳科の授業を確実に実施する。
- 年間指導計画に教科書の教材を各学年8割程度位置付けるとともに、「北九州道徳郷土資料」「人権教育教材集 新版 いのち」の必ず位置付け、意図的・計画的に指導する。
- ICTや思考ツールを効果的に活用して、「答えが一つでない課題に生徒が主体的に向き合い、考

え、議論する道徳」へと導く。(確実に話し合い活動を設ける)、生徒の自尊感情及び社会貢献意識を高め、豊かな人間性を育む。

- 道徳ノート、ワークシートやOPPシートを授業の終盤に記入させるなどを通して、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子をより多面的・多角的・継続的に把握し、評価に活かす。
- 他の生徒との比較による評価ではなく、生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価とする指導と評価の在り方などを、校内研修会で検討を一層進める。
- 学年ローテーション授業により、他教員の道徳の授業が参観できるように、時間割等の柔軟な対応を行い、道徳の校内研修の充実を図る。
- 体験活動を通じて、生徒の意欲や創造性を育むとともに、本校の特色である箏曲や三味線などの演奏体験学習や観賞会など、伝統文化を学ぶ機会を充実する。

動考

◇ 学校、生徒、地域の実態等をもとに創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成し、決して立ち止まることなく、生徒と教師ともに挑戦できる教育活動の創造・実践に努める。

- 体験的な活動・学校行事の充実を図る。
 - ・1年 … ふれあい合宿(5月15日～5月17:門司少年自然の家・百人一首大会) 【1学年職員】
 - ・2年 … 福岡市ウォークラリー、修学旅行(11月24日～11月26日:奈良・京都)・百人一首大会 【2学年職員】
 - ・3年 … 校外学習(太宰府天満宮) 【3学年職員】
 - ・体育大会…5月31日(金) 【体育祭実行委員会】
 - ・文化祭…10月23日(水)(50周年行事と併行して行う) 【文化祭実行委員会】
- ※合奏・演劇の発表及び文化部、総合的な学習の時間の発表の場として、4月より計画的に取り組む。

○ 総合的な学習の時間の充実を図る。(総合のメインテーマ:生きる) 【総合的な学習の時間】

- ・1年 … 探究学習・文化祭の取組・生き方学習(職業調べ)
- ・2年 … 探究学習・文化祭の取組・生き方学習(高校調べ)
- ・3年 … 探究学習・文化祭の取組・進路学習

○ 生徒の豊かな心を育むため、またSDGsの視点を踏まえ日本の伝統文化に触れる機会として、「和楽器演奏会」の開催、箏・三味線・尺八などの和楽器演奏体験授業を実施する。【音楽科・箏曲部】

◇ 集団の力を高める特別活動、将来の社会的・職業的自立に向けたキャリア教育を推進する。

- 自主的な生徒会行事の計画・運営を行い、生徒会活動の充実を図る。

学校支援地域本部事業を生かした「生徒会・小中連携プロジェクト」 【小中一貫連携推進・生徒会】

- 生徒会主催「主体的な〇〇運動(例 挨拶運動等)」を実施
- 8月3校合同研修会・三部会(学力体力部会、生徒指導部会、特活部会)の開催
- 2学期;出前授業、代表者授業・マイスター教員公開授業の参観
- 「キャリア教育授業」や 小学校へ中学校職員派遣(質問コーナー)
- ◎10月23日(水) 創立50周年記念事業に向けた「キャリア教育授業」の開催
- 将来の社会的・職業的自立に向けて、キャリア教育(進路指導)の充実を図る。 【特別活動】

- ・1年… 職業調べ及び発表、ゆめ未来ワーク、キャリア教育授業など
- ・2年… キャリア教育、高校調べ及び発表など
- ・3年… 進路説明会の開催・高校体験入学・進路相談 等

◇人権意識の高揚と確かな人権感覚を身に付ける人権教育を推進する。 【人権・平和学習・PTA】

- 50周年行事 講演 中村文昭氏、佐藤ひらり氏コンサート
- 7月「平和に関する資料」を活用した平和に関する指導、夏休み期間中の人権作品制作の取組、「明日への伝言板」の放送など、あらゆる教育活動の場面で、人権・平和教育を推進する。

【人権・平和学習】

◇SDGsの視点を踏まえた「シビックプライドの醸成」を目指し、環境教育、福祉教育、国際理解教育等、SDGsの視点が含まれる取組を推進する。 【各学年】

- SDGsの理解を進めるとともに、生徒が主体的・協働的に学び、行動するための能力・態度を育む。

「SDGs推進事業」推進校(市内中学校12校)

- 生徒会環境委員会が中心となって、環境に関する身近な事象や課題に目を向け、学校や地域の特色を生かしながら、「世界の環境首都」を目指す意識や意欲を高める。 【生徒会環境委員会】

- 防災・減災教育の推進:「守られる人」から「守る人」へ 【避難訓練】

- 1年生全員に配布する北九州市SDGs副読本「KITAKYUSHU SDGs Action」を主に総合的な学習の時間の中で活用(指導案やワークシートの先生チャンネルにてダウンロード可)し、SDGsの理念を知り、取組に対する意欲を高める。 【1学年】

5月 生徒総会

6月 SDGs講演会「則松中学校区の防災を考える」

10月 生徒会執行部とPTAによる被災地の視察・義援金の持参、特産品の仕入れ

11月 被災地の特産品バザーの開催、被災地視察報告会の開催

- ICT(タブレット端末等)・視聴覚資料や機器(体育館の無線マイク等)の充実、積極的な活用を図り、情報活用能力を育成する。 【情報教育】

元気

- ◇ 好ましい人間関係を育て楽しい学校生活の実現を図るとともに、組織的な生徒指導体制の確立（報告・連絡・相談・確認・記録）と家庭・地域・関係機関等との連携を推進しながら、教育活動全体を通して生徒一人一人の自己指導能力を育成し、自己実現を目指す積極的な生徒指導を推進する。

【生徒指導】

- 問題行動を抑制する生徒指導から、生徒のよさを見つけ伸ばすなど、自己実現を目指す積極的な生徒指導を推進する。
- 週に一度の生徒指導委員会を開催し、学年間の情報交換を密に行い、その情報を基に生徒指導が円滑に行われるように努めるなど、校内の生徒指導体制の確立を図る。
- 危機管理の「さしすせそ」（最悪を想って、慎重にかつ素早く、誠意をもって、組織で対応する）と「報告・連絡・相談」、「記録・確認」徹底を図る。特に学校事故発生時の対応については、職員への徹底を図る。
- 性に関する教育及び啓発に努める。
- 定期的（月一度）な安全点検を実施するとともに、校内巡視の徹底、毎朝の登校指導・校区内交通安全指導、校外巡視を行う。

【小中一貫・連携教育・生徒指導・生徒会・スクールカウンセラー・小中連携推進員】

- ◎ 好ましい人間関係を育て、楽しくて居心地のよい学校・学級づくりを目指して、小学校と連携して、義務教育の9ヶ年を見通した連続性がある「北九州子どもつながりプログラム」を実践する。

小学校・関係機関（SCやSSWを含む）との連携、3校合同研修会（本校が担当？）

「北九州子どもつながりプログラム」授業の実践・交流

学期に1回以上の「生活アンケート」（いじめ防止・虐待防止に関する内容を含む）・全市一斉アンケート（年間保管）をもとに、教育相談の実施（1・2学期）

- ◎ 定期的な生徒指導委員会を開催するとともに、SC・SSW・関係機関（不登校等支援センター・教育支援室・オンライン授業・みらとび）との連携を密にし、不登校の予防・改善・解消、虐待防止を図る。

【生徒指導・教育相談】

- ◎ 校則を、積極的に見直す。

【生徒指導】

・令和5年度も校則の見直しを進めたが、本年度も生徒の実情、保護者の考え方、地域の状況、社会の常識、時代の進展などを考慮し、生徒総会や生徒会生活委員会など、生徒に主体的に考える機会を作り、校則の見直しを積極的に進める。また必要であれば、PTA役員会やアンケートの実施なども検討する。

- ◎ ステップアップルームを整備し、適切な運用を図る。

- ・自学自習の充実（ドリル、ワーク、ドリルアプリ、チームスなど）
- ・定期的な担任・教科担任の支援の充実（時間割への位置づけ）
- ・ステップアップルームに登校する生徒が「心地よい居場所」となるための「利用の決まり」の確認

◇ 生涯を通じて心身ともに健康で安全な活力ある生活を送るための健康教育(学校保健・学校安全・食育)を推進する。

- 学校給食を通して、食のマナーの徹底を図るとともに、給食の残食0を目指した積極的な取組を行うなど、豊かな人間性を育む食育を推進する。特に、生徒に健全な食習慣を習得させるために、「生きた教材」としての給食を、各教科や給食の時間の指導に活用し、継続的な取り組みを行う。【給食指導】
- 食物アレルギー対応給食について、前日の打ち合わせで対応当日の確認を徹底するとともに、全教職員の共通理解を図る。牛乳のストロー廃止に伴い、適切な導入を図る。【保健指導(アレルギー担当)】
- 関係機関と連携し、火災・地震・浸水被害・不審者対応を想定した避難訓練・シェイクアウト訓練を年4回実施する。【生徒指導】
- 全校生徒を対象とする規範意識育成教室として、「薬物乱用防止教室」、「暴力団排除教育」、「インターネット適正利用教室」、「性暴力対策アドバイザー事業」、2年生対象のスクール救命士講習会を開催する。【生徒指導】
- 生徒会保健委員会が中心となって「熱中症予防」と「感染症予防」の取組を行う。
- 2年生対象の「SCと連携した自殺予防教室」(3学期)を開催するとともに、各学年の実態に応じた「性に関する指導」を実施する。【保健指導】

◇ 教職員が子どもと向き合う時間の確保のために、北九州市教育委員会が示した「学校における業務改善プログラム(第3版)」のもと、学校が主体となって業務改善の取組を実施する。【教務・部活動指導】

- 校時表や諸会議の時間、清掃の回数等を積極的には見直すとともに、業務改善に努める。
 - 事務職員の学校運営への積極的な参画(運営委員会への出席)を図る。
 - 教職員が主体的に研修に参加できるように、校内研修の短時間・ユニット化を推進する。
 - 業務改善の視点から、部活動における全員顧問制(生徒会担当への配慮)を維持し、適切な部活動の休養日を設定する。
 - 各部活動の土日の動向の見える化を推進するために、本年度も職員室前方の小黒板を活用する。
 - ◎ 部を設置しなくても近隣の学校と連携して活動を実施することができる連携部活動制度を継続する。
- ◇ 学校のよさや特色を積極的に情報発信する学校評価システムの構築を図り、保護者や地域住民から信頼される開かれた学校づくりを目指す。
- ・スクールプランを学校経営の軸とし、学校の教育課題解決に向けて全教職員の共通理解を図り、目標の達成に向け組織的に実践する。
 - ・PDCAのサイクルを通して日常的に教育活動を評価し、改善する。
 - ・学校運営協議会において、目指す子ども像や学校の重点目標、学校が抱える課題など、学校運営について話し合う場「熟議」を充実させるとともに、保護者対象の学校運営説明会(4月)を開催する。
- ◎ 新しい年!元気発信!則松中!
- 生徒会テーマ「全校生徒一人一人が、生き生きと活動できる生徒会」の実践
 - 生徒の成長、学校のよさや特色の発信(学校のHPの公開)